

社会福祉法人 楽山会  
第二椎の実子供の家  
平成元年度 事業報告

平成30年度の新保育所保育指針を受け「幼児教育」と「乳児期の養護の重要性」を意識した保育を行った。椎の実子供の家・第二椎の実子供の家独自で作成したモンテッソーリカリキュラムと就学前カリキュラムを活用し、乳児期から幼児期の生活・遊び・学びに力を入れた。

衛生面では日々清潔に心掛けていた。特に令和2年1月後半からは新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、アルコールや次亜塩素酸水溶液による消毒に力を入れた。3月は卒園生にとって、親子遠足などの行事が多い時期であったが、感染拡大を防ぐ為、行事を中止せざるを得ない状況が続いた。卒園式だけは人数制限をして開催した。感染症の発症者は出なかった。

保護者への連絡や、保護者からの連絡事項に関しては昨年3月に導入した、保育園用ITC業務支援システム「コドモン」が役立った。特に3月は自主的に家庭保育をする方が多く、休んでいても園の情報が流せることと、出欠状況を保護者の側で入力し家での様子をしらせてもらうことができた。

椎の実子供の家園舎立替事業については、プロジェクトメンバーやワーキングメンバーで話し合う以外に、アドバイザーの講師や設計事務所の方々と顔合わせて話し合える機会が持て、具体的な保育園側の希望を伝えることができ、より現場の意向を反映させることができた。

地域に開かれた保育園の役割と責任として、一時預かりのお子さんを積極的に受け入れ、また保育実習生やボランティアの受け入れなど次世代育成支援にも努めた。

10月から制度化された3歳～5歳児の「教育・保育の無償化」により、給食費は園で独自に徴収することとなった。

#### 重点目標

- I 生活や遊び、運動、表現活動を通して「思考力、判断力、表現等の基礎」を育む保育の推進
- II 幼児教育機関として、より専門性の高い人材育成と職員の定着化
- III 衛生管理、安全管理の周知及び徹底
- IV 地域子育て支援の充実と、地域・保護者との連携により共育活動を推進する
- V 椎の実子供の家園舎建替事業

- I 生活や遊び、運動、表現活動を通して「思考力、判断力、表現等の基礎」を育む保育の推進
 

0歳から2歳はモンテッソーリ活動を積極的に行いながらも、室内と屋外の両方で体を使って遊び、自分でできることが増えることに喜びを感じていった。散歩にも積極的に出かけ、公園以外にも警察署や消防署に行かせていただき、顔見知りになることで沢山の車両をみせていただくことができた。自分の身の回りの地域社会への興味を広げるきっかけになっていった。

3、4、5歳児は、前半は縦割り混合クラスで過ごすことで、年長児が年下の子をお世話をすることで、思いやりや憧れの心を育むことができた。

今年度はラグビーワールドカップが日本で開催され、5歳児は自分達でルールを作り、園庭でラグビーを楽しんでいた。また、1月以降は就学前カリキュラムを活用し、5歳児独自の時間を設け、自分の名前をきれいに書く練習やひらがなの練習、一斉活動で折り紙の折り方を行うなど就学前の準備を行った。文字の練習では、筆圧が弱い子のために保育士が絵描き歌を導入したと

ころ、子どもが喜び、流行するなど思いがけない効果があった。

## II 幼児教育機関として、より専門性の高い人材育成と職員の定着化

次世代を担う保育士の育成 子ども一人ひとり今必要なことは何かを、保育者が状況に応じて瞬時に判断し、実行する保育者を目指していった。特に子どもの人権には重点を置き、人権擁護とは何かを学び、子どもの人権を第一に考える事を職員に指導していった。

課題がある子には園医を通し、専門のクリニックにつなぎ、診断していただき加配保育士を雇うことができた。また、市の巡回指導を活用し、発達に課題のある子を専門機関に繋げることもできた。当園では母親が子育てに困難さを感じていたケースがあり、専門機関をご紹介することで、保護者が今後の道筋が持てたと安心していただけることができた。職員も課題がある子をどのタイミングでどこに繋ぐべきか、具体的な対応に自信を持つことができた。

モンテッソーリ教育の園内研修では、カリキュラムを活かし、両園で学んでいった。

またモンテッソーリ教員資格取得については、法人による学費助成制度を活用し、学びに励んでいた1名の保育士が無事乳児コースを修了した。令和元年度は3名の職員がモンテッソーリ教員資格を取得するために通信教育で学び始め、現在は2年生に進級している。

## III 衛生管理、安全管理の周知及び徹底

施設内の環境を常に適切な状態に保持するとともに、施設内外の設備、用具等の衛生管理に努めた。インフルエンザや胃腸炎等の感染症については、初期対応の徹底において流行することは無かった。しかし、1月後半頃より、新型肺炎コロナウイルスの感染（パンデミック）による行事の自粛、短縮など、思いがけない対応に追われた。園では手洗いの更なる励行と、手指のアルコール消毒、園内に入る場合はマスクの着用を義務付けた。保育室は換気を心掛けた。また職員がイベントやライブなど、密閉空間に大勢が集まる場所への参加を禁止した。

一方安全で安心な給食提供を行うため、特に食物アレルギーについては、全職員が基礎知識を持ち、日常的なコミュニケーションの徹底を図り、年間を通して誤食などの事故予防に努めた結果、誤食は無かった。

## IV 地域子育て支援の充実と、地域・保護者との連携により共育活動を推進する

昨年同様、地域子育て支援については、地域の実情や子育て世帯における様々なニーズを踏まえながら、地域貢献の一環として、「出産を迎える親の体験学習」を行った。インフルエンザ等の感染症が流行する前に会を設けることで、より多くの方に参加していただけた。運動会に関しては台風等の悪天候により開催が平日となったため、参加者が限られてしまった。また3月から三鷹市の要請により、新型コロナウイルス感染症拡大防止のために一時保育のご利用を勤務、緊急時のみの方に制限した。

## V 椎の実子供の家園舎建替事業

平成27年度から行ってきた、両園によるプロジェクトチームで進めてきた建替え事業だが、基本設計図面がまとまった。今後はより細かい保育設備について、プロジェクトチームと設計事務所で打ち合わせを行っていく予定。

令和2年度はより具体的な事業展開をまとめていく為、新たに地域公益事業のためのプロジェクトを立ち上げる予定。

1 園児について

園児とクラス編成

(1) 定員 120名

(2) 年齢別 ① 0歳児 9名 ② 1歳児 17名 ③ 2歳児 22名  
 ④ 3歳児 24名 ⑤ 4歳児 24名 ⑥ 5歳児 24名

(3) クラス編成と職員構成

クラス名	対象年齢	定員	在籍数	保育士	職員数
たんぽぽ	0歳児	9名	9名	3名	園長 1名 副園長 1名 保育士 20名 看護師 1名 栄養士 1名 調理員 3名 非常勤職員 18名 嘱託医 1名
すみれ	1歳児	17名	17名	4名	
つくし	2歳児	22名	22名	4名	
もも	3歳児	8名	8名	2名	
	4歳児	8名	8名		
	5歳児	8名	8名		
さくら	3歳児	8名	8名	2名	
	4歳児	8名	8名		
	5歳児	8名	8名		
あんず	3歳児	8名	8名	2名	
	4歳児	8名	8名		
	5歳児	8名	8名		
合計		120名	120名	17名	
一時預かり いちご	満1歳~5歳	6名		2名	46名